

大府市議会

議長 深谷直史様

大府市議会厚生文教委員会

委員長 窪地 洋

# 報告書

～健康づくりと運動・スポーツについて～

平成28年5月

大府市議会 厚生文教委員会

## 1 はじめに

当委員会は、平成27年6月19日、健康づくりと運動・スポーツについて、市政の現状及び課題を把握し、政策立案、政策提言を行うため、所管事務調査として「健康づくりと運動・スポーツについて」の調査を行うことに決定し、以降、閉会中を中心に調査を行ってきた。

このたび、調査研究の成果を「大府市への提言」として取りまとめたので、その内容を以下のとおり報告する。

## 2 調査の方法

調査については、閉会中を中心に、市職員を講師とした勉強会、至学館大学の学長を講師とした研修会及び情報交換会、大府市スポーツ推進委員会及び大府市体育協会との情報交換会、市外自治体への視察調査等を行った。

### (1) 平成27年6月19日（金） 厚生文教委員会

- ・ 健康づくりと運動・スポーツについて、市政の現状及び課題を把握し、政策立案、政策提言を行うため、所管事務調査として「健康づくりと運動・スポーツについて」の調査を行うことに決定した。
- ・ 本調査については、議長に対し、調査研究が終了するまで、閉会中の継続調査の申出をすることに決定した。

### (2) 平成27年7月14日（火） 厚生文教委員勉強会（委員派遣）

- ・ 委員6名全員で、健康文化部文化スポーツ課主幹を講師として勉強会を行い、大府市スポーツ推進計画について、委員間の認識の共有化を図った。

### (3) 平成27年7月14日（火） 厚生文教委員意見交換会

- ・ 健康文化部文化スポーツ課主幹を講師とした勉強会について各委員に所感を求め、スポーツの推進の在り方等について意見交換を行った。

### (4) 平成27年8月20日（木） 至学館大学学長を講師とした研修会及び情報交換会（委員派遣）

- ・ 委員6名全員で、「健康づくりについて地域に望むこと」をテーマに至学館大学学長を講師とした研修会を行い、研修会后、学長と同テーマで情報交換を行った。

### (5) 平成27年9月15日（火） 厚生文教委員意見交換会

- ・ 至学館大学学長を講師とした研修会及び情報交換会について、各委員に所感を求め、大府市の子どもスポーツへの取組、スポーツの推進に関する方策等の意見交換を行った。
- (6) 平成27年10月28日(水) 市外視察調査(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、山口県宇部市のスポーツコミッションについて、調査を行った。
- (7) 平成27年11月16日(月) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 山口県宇部市への視察調査について、各委員に所感を求めた上、それぞれの調査内容について、委員間で意見交換を行った。
  - ・ これまでの調査研究の内容を踏まえ、市政への反映、提言等について、委員間で意見交換を行った。
- (8) 平成27年12月16日(水) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 前回の厚生文教委員意見交換会に引き続き、市政への反映、提言等について、委員間で意見交換を行った。
- (9) 平成28年1月28日(木) スポーツの普及に関する情報交換会(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、大府市スポーツ推進委員会の委員と「スポーツの普及について」をテーマに、情報交換を行った。
- (10) 平成28年2月3日(水) スポーツの推進に関する情報交換会(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、大府市体育協会の役員と「スポーツの推進について」をテーマに、情報交換を行った。
- (11) 平成28年2月18日(木) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 大府市スポーツ推進委員会及び大府市体育協会との情報交換会について、各委員に所感を求め、市政への反映、提言等について、委員間で意見交換を行った。
  - ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (12) 平成28年3月8日(火) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (13) 平成28年3月17日(木) 厚生文教委員会
- ・ 報告書の内容を決定し、本会議で報告することとした。

### 3 大府市への提言

#### (1) 本市の現状

スポーツは、健康維持や生活習慣病対策に有効であると言われており、人生90年時代の現代社会において、それぞれの年齢や体力、目的に応じて、積極的にスポーツに親しむことは、明るく健康的で、いきいきとした生活を送る上で、大きな意義を持っているものと考えられる。

大府市は、平成20年3月に「大府市スポーツ振興指針」を策定し、その指針に基づき、石ヶ瀬多目的グラウンドの整備（平成21年度）、大府市総合型地域スポーツクラブ「OBUエニスポ」の設立（平成22年度）等の様々なスポーツ施策を行ってきた。また、平成24年3月に国がスポーツ基本計画を作成したことを受け、「スポーツを通じた豊かなライフスタイルの実現」を基本理念に、大府市スポーツ推進計画を平成25年度から平成32年度の計画期間で策定し、大府市教育振興基本計画と連携を図りながら、スポーツ活動の推進、スポーツ環境の整備に関する施策を総合的に実施している。

しかし、市内関係団体との情報交換等の調査研究を通して、市内スポーツ施設の不足や老朽化、運動・スポーツを行っていない人への意識改革、子どもたちへの運動・スポーツのきっかけづくり、各種関係団体の連携の在り方等の課題があることが判明した。

#### (2) 今後、本市に求められること。

このような課題を受け、当委員会は、次のとおり「健康づくりと運動・スポーツについて」、大府市に必要な取組として提案する。

##### ア 仕組みの改善

まず、ソフト面の取組として、「仕組みの改善」について、次の4点を提案する。

##### (ア) 市内のスポーツ推進に関わる団体間で情報の共有化と方向性を合わせる場を設定すること。

市内には、大府市スポーツ推進委員会、大府市体育協会、OBUエニスポ、小中学校、高等学校、大学、民間スポーツクラブ、企業等、様々なスポーツの推進に関わる団体があり、それぞれの団体で、それぞれの得意分野を生かして、スポーツの推進を行っている。それらの団体が連携するためには、情報を共有する場を設け、目指すべき姿の方向性を示していく必要がある。

また、スポーツ施策を推進する上で、スポーツコミッションを設立して、連携を行う必要性について検討することも将来的には重要になってくると考える。

**(イ) 市内に在住・在学・在勤しているトップアスリートの生の声を子どもたちに聞かせること。**

先進地視察を行った山口県宇部市では、子どもたち自らが未来を切り拓こうとする力を育むため、「トップアスリートによる子ども夢教室」を実施している。

大府市においても、吉田沙保里選手などのトップアスリートが活動拠点とする至学館大学があるため、平成22年に締結した包括協定を活用し、子どもたちがトップアスリートの生の声を聞く機会を設定することにより、スポーツへの関心を高め、夢や目標を持ち、それに向かって努力することの素晴らしさ、仲間との協力の大切さなどを学ぶことができると考える。

**(ウ) 運動やスポーツ、遊びを通して、子どもたちが自ら進んで、体を動かせるようなきっかけをつくること。**

神田小学校では、平成23年度から子どもたちが生涯にわたって運動やスポーツに親しむ習慣をつけるための取組を実践し、成果を挙げている。平成25年度には愛知県の優良校として、平成26年度には全国の優良校として表彰され、現在も継続的にこの課題に取り組んでいる。この取組を市内各小学校に横展開していくべきである。その際、各学校が愛知県の体力づくり優良校へチャレンジすることもモチベーションを上げる一つの方法であると考えます。

また、「缶蹴り」、「鬼ごっこ」、「ゴム跳び」など、昔ながらの伝承遊びは、子どもたちが友達と楽しみながら、遊びを通じて体を動かすきっかけとなり、子どもの体力の底上げにつながることから、学校と連携して、伝承遊びを紹介する機会をつくる必要があると考えます。

**(エ) 市民に対して、健康づくりのための運動やスポーツの取組を積極的にPRすること。**

日頃、運動やスポーツをしていない人に運動やスポーツをするようにアプローチしていくことは難しく、平成26年度の市民意識調査では、「日頃から健康の維持・増進のために意識的に体を動かすこと」という項目に、約3割の人が、「ほとんど取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」と回答しており、ここ数年の結果を見てもその割合は、ほぼ変化がない。

運動やスポーツに積極的ではない市民に対しては、運動やスポーツをすることによって、健康づくりに対してどのような効果があるのか、どのような取組が行われているのか等の情報発信を積極的にしていくことが必要である。また、子どもの頃からの運動習慣が重要であるため、各種団体と学校や子ども会との連携など、多くの団体が総合的に関わっていく必要があると考える。

## イ スポーツ施設の整備・充実

次に、ハード面の取組として、「スポーツ施設の整備・充実」について、次の3点を提案する。

### (ア) 老朽化したスポーツ施設や備品を計画的に改修・整備すること。

平成28年度に市民体育館の改修工事が予定されているが、市内のスポーツ施設や備品の老朽化が進んでおり、多くの市民から、施設が不足しているとの声もあがっていることから、計画的に改修・整備を行うことが必要である。

また、改修・整備の際には、各種団体に意見聴取をする等、課題やニーズの把握に努め、汎用性の高い施設や備品となるように留意することが必要である。

### (イ) 健康増進に寄与する身近な施設整備を進めること。

歩けるプール、ウォーキングロード、ウォーキングマシン等の健康増進に寄与する施設や備品を整備し、市民が身近に運動ができる環境を整え、運動してみたいと思ったときに気軽に運動ができるきっかけをつくることが必要と考える。

### (ウ) 近隣市町の運動・スポーツ施設の整備状況を把握し、広域相互利用を推進すること。

平成15年4月から知多半島5市5町の公共施設を相互利用することが可能であるため、近隣市町の運動・スポーツ施設の整備状況を把握し、公共施設の広域相互利用を進めることで、市民が気軽に利用できる施設となるよう、近隣市町と緊密に連携していく必要があると考える。

例えば、東海市の「緑陽公園」の一部は、大府市共和町兒子廻間に計画されており、大府市都市計画にも位置付けられている。その計画の大部分が東海市であり、東海市の整備計画の動向を注視し、大府市としても積極的に協力していく必要がある。

#### 4 おわりに

以上が当委員会の調査研究の成果であり、大府市への提言である。本市の運動・スポーツ施策を健康づくりにつなげていくためには、これら以外にも様々な事項について、対策が必要となってくる。

その一つとして、子どもたちがトップアスリートを夢見て、その実現のため努力している中、経済的な理由によって、その才能を開花できないようなことがないよう、育英基金を創設すべきという意見もあったが、大府市としては、既にスポーツ振興基金がある。国や県の取組と連携を取り、この基金のさらなる有効活用を期待している。

また、子どもたちの体力低下を防ぐためには、運動やスポーツを体験するきっかけづくりがいかに重要かを今回の調査活動を通じて、改めて痛感した。昨年度の厚生文教委員会の政策提言において「幼保児小中連携教育の指針『きらきら』」の推進を取り上げた。きらきらチャレンジウィーク「ノーテレビ・ノーゲームデー」を活用し、是非家庭でも子どもたちが運動するきっかけづくりとして、昔遊びなどを親子で実践していただきたい。

さらに、障がい者スポーツについては、その重要性を認識し、今後の課題として、障がい者スポーツの推進を図ることが、誰もがスポーツに取り組める環境をつくることにつながると考える。

以上のような我々の思いを受けとめていただき、市長におかれては、本報告書の内容について十分に検討の上、今後の本市の施策に生かしていただくことを強く期待している。

最後に、当委員会の調査活動に御協力いただいた全ての方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げ、本報告書の結びとする。

## 厚生文教委員会委員名簿

(平成27年5月11日～平成28年5月11日)

役職名	氏名	所属会派
委員長	窪地 洋	公明党
副委員長	久永 和枝	日本共産党
委員	小山 昌子	市民クラブ
委員	大西 勝彦	市民クラブ
委員	鷹羽 琴美	自民クラブ
委員	深谷 直史	自民クラブ

(備考)

正副委員長のほかは、議席番号順